

平成25年度 病害虫発生予察注意報 第1号

平成25年6月17日
栃木県農業環境指導センター

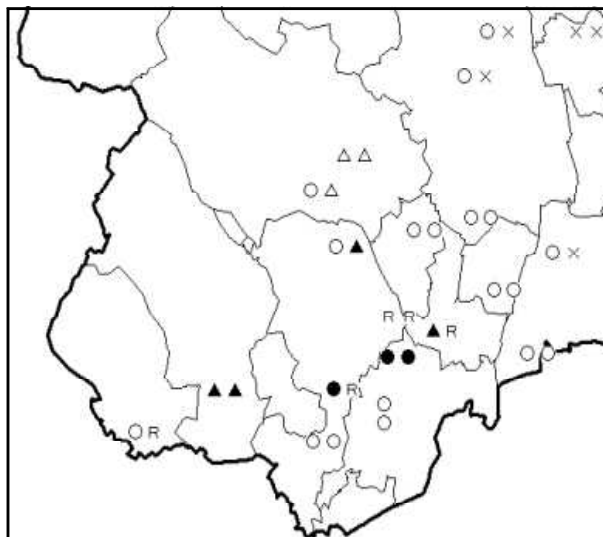
作物名 : 水稻

病害虫名 : イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ媒介)

- 1 発生予想 発生量 多い
- 2 発生地域 県南地域
- 3 注意報発表の根拠

- (1) イネ縞葉枯病は年々増加しており、県南地域では昨年の黄熟期に要防除水準(発生株率10%)を超える地点が複数見られた(図1)。
- (2) ウンカ類幼虫の越冬前密度調査では、県平均60.6頭/10m²(平年比312.2%)と多い状況だった。
- (3) 平成25年5月下旬～6月上旬にヒメトビウンカ第1世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス保毒虫をエライザ法で検定した結果、保毒虫率が県平均5.3%と過去2年に比較して非常に高くなった。また、県南地域では保毒虫率10%以上の高い地点が複数見られた(表1)。

表1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫の
イネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移(%)



程度	無	散見	少	中・多・甚	
発生株率(%)	0	1未満	1~10	11~20	21以上
記号	×	△	○	▲	●

R: 抵抗性品種の作付ほ場

地点名		H23	H24	H25
県北	大田市蛭畑	0.0	1.8	0.9
	那須烏山市大桶	0.0		
	高根沢町花岡	0.9	0.9	0.9
県央	芳賀町西高橋	0.0		
	真岡市青田	1.8	2.7	9.1
	宇都宮市芦沼町	0.9	0.9	1.8
	上三川町上三川	0.9		
	鹿沼市酒野谷	1.8	1.8	0.0
県南	下野市小金井	0.9	1.8	10.0
	小山市下石塚	5.5		
	小山市小袋	5.5	8.2	12.7
	小山市石ノ上	2.7	3.6	8.2
	小山市寒川	9.1	2.7	7.3
	壬生町助谷	0.0	0.9	2.7
	栃木市惣社町	1.8	0.9	2.7
	栃木市大平町真弓	5.8	4.5	7.3
	栃木市藤岡町富吉	1.8		
	栃木市藤岡町蛭沼	3.6	3.6	12.7
	佐野市小中町又は並木町		0.0	1.8
足利市高松町	0.9	0.0	1.8	
県平均		2.3	2.3	5.3

図1 黄熟期のイネ縞葉枯病発生状況
(平成24年8月下旬～9月上旬 県中南部抜粋)
※要防除水準: 発生株率10%以上(▲, ●)

注: 検定サンプルは5月下旬～6月上旬に、麦類ほ場から採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫
検定方法: DAS-ELISA法 検定数: 110頭/1地点
ただし、H25年の栃木市大平町真弓は3ほ場平均

4 防除対策

【本田での対策】

- (1) 県南地域の罹病性品種（コシヒカリ等）に対して、6月下旬～7月上旬に本ウイルスを媒介するヒメトビウンカの本田防除を行う。なお、箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合は、同一系統・薬剤の連用を避ける。

表2 ウンカ類に登録のある主な農薬（平成25年6月10日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期/本剤の使用回数
アドマイヤー1粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで/2回以内
アドマイヤー水和剤	2000倍	収穫7日前まで/2回以内
スタークル1キロH粒剤	1kg/10a	収穫7日前まで/3回以内
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで/3回以内
MR.ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで/2回以内
トレボンEW	1000倍	収穫21日前まで/3回以内

【次年産に向けての対策】

- (1) 再生稲はヒメトビウンカの個体数の増加や、発病株をヒメトビウンカが吸汁して保毒虫率を高める恐れがあるため、収穫終了後は速やかに耕起をする。
- (2) 抵抗性品種（とちぎの星等）を作付する。近年増加している飼料イネも、抵抗性品種（クサホナミ、はまさり等）に切り替える。

詳しくは、農業環境指導センターまでお問い合わせください。

TEL 028-626-3086

<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/>